

ふるさと沼津第一



沼津鬻校区の 歴史探索

平成28年10月15日 第3号

発行：第一地区コミュニティ推進委員会



この会報誌は第一地区の歴史発見事業の一環です

丸子の杜はわが町の原点

錦丸子町

第一地区の西端に位置する錦丸子町は、現在、校区の中でも際だった広い面積と、大手町に次ぐ世帯数を有しています。

沼津第一中学校の南側に鎮座する丸子神社がこの町の原点。金山彦尊という、金属関係を主宰する神様を祀っています。由緒ある古い神社で、一説では4世紀代に創建されたとも言われていますが、幾度もの戦火で社殿を焼失したため、明治時代、浅間町の浅間神社



昭和25年 一中に入学する子供たちと父兄、丸子神社にて

大正12年、沼津商業高校がこの地に移転してきた当時は、周囲は人も通らない田園のまま残っていたところもありましたが、明治21年に敷設された蛇松線の影響などもあり、町は開けていきました。戦後の昭和22年には杉山病院が開業、昭和26年には沼津第一中学校の新校舎が建設され、多くの人々が入ってくると共に、住宅も増え続けてきたのです。

和53年に社殿の改築を行った際、埋蔵文化財の発掘が行われ、貴重な祭祀遺跡であることが確認されました。



沼津商業高校旧校舎全景

町名の由来を尋ねる

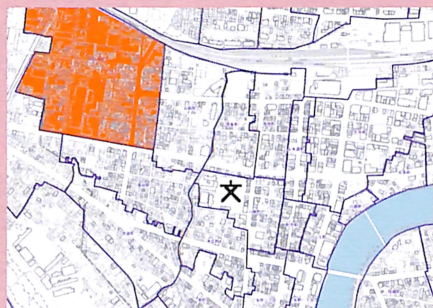
～錦丸子町～

丸子町は大字本に編入されてきた町域ですが、昔から式内社丸子神社が鎮座していた場所で、沼津でも古い土地です。

文亀年間には社殿は炎上して移ったともいわれ、その昔は丸子神社に由来したと思われる小字名が複数残されていました。

なお、錦町の町名の由来については不明です。

このコラムは、静岡新聞社発行の「町名の由来」などを参考に作成したものです。



わたしの思い出

あの時のこと

「このまちのことは、この人に聞け！」

このコーナーでは小学校の思い出や空襲後焼け野原となったまちが、復興を遂げていくさまざまな道を、まちの「重鎮」にお聞きします。今回は、錦丸子町自治会長の神尾敏さんに、写真を元にお話を伺いました。



昭和25年丸子神社祭典。途中で子供神輿休憩（真砂町安本油店の前）

「当時は、現在では真砂町になっている旧国道1号線南側の一部も錦丸子町に含まれていました。範囲が広いので、神輿の巡行はかなり大変だったことでしょう。」



昭和36年ごろ。杉山病院前の交通量調査

「当時の旧国道1号線は未舗装道路でした。沼津駅の西側は未舗装が多くて、馬に曳かれた四輪の荷車が青果市場に行き来し、路上の馬糞にハエがたかるなど、駅に近くても農村のような光景でした。」

その後、交通機関の主流がトラックに変わると、荷車を作っていた会社はトラックのボディ製造に転換し、広い空き地があった錦丸子町内には、いくつかのトラックボディ製造会社を作られました。」

「今沢海岸で陸揚げされた戦車が、御殿場の演習場に移動するときに、沼津商業高校の前の国道を騒音とともに通っていました。」

「当時の沼津商業高校はスポーツが盛んで、競技施設にも恵まれており、飛び込み台のある深いプールがあったため、夜になると各所から子供たちが塀を乗り越えて遊びにやってくるようになりましたが、ある時不幸にも水難事故が起こり、自由に出入りすることはできなくなりました。」

「子供たちは沼津第一小学校の東門を『表門』西門を『裏門』と呼び、西武百貨店や松菱デパートに出かけるときは『街に行く。』と言って出かけ、当時からこの町にあった『火の車』の焼きそばを小遣いで食べるのが楽しみでした。」



昭和33年ごろ。沼津商業高校グラウンドで徒競走の練習をする小学生

求ム！ まちのお宝

昔の写真や資料の情報をお寄せ下さい

1868年、日本最初の近代的小学校とされる代戯館（だいぎかん）が現在の上本通り付近に開設されました。これが沼津市立第一小学校の前身となっています。

平成30年に創立150周年を迎えることを記念して、第一地区コミュニティ推進委員会では、歴史再発見事業を行うことしました。今年は、いろいろな資料を集めていく予定ですのでご協力をお願いします。

（第一地区センターURL：palangel.jp/r2/us/daiichi/）

みなさんのお宅に眠っている昔のまちなみの写真や懐かしい道具がありましたら、お知らせください。

